

国立病院機構熊本医療センター

No.156



くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL (096)353-6501(代)
FAX (096)325-2519

最近の地域医療連携室の取り組み

先生方には、日頃、多数の患者さまをご紹介頂き大変ありがとうございます。地域医療連携室では、病診連携機能を充実させるため、看護師長の黒田かえでが地域医療連携室係長として平成21年4月より配属され、その他、看護師1名、MSW1名が増員され、計10名となりました。

24時間365日断らない医療を継続するためには、地域医療連携室で行う転院調整が大変重要な役割を担っています。メディカルソーシャルワーカー（MSW）が転院先のない患者さまの状態、必要な処置、障害の程度、介護度などに合わせ、受け入れ可能な病院を探し、ご快諾頂いた医院・病院に転院して頂いております。地域医療連携室で決定した転院先病院の概要を、担当医が知らないために患者さまに十分な説明ができないこともあります。現在、病院紹介のためにご郵送あるいは、ご持参して頂いた病院紹介のパンフレットを院内LANで職員に紹介しております。

平成20年2月8日に当院が地域がん診療連携拠点病院の指定を受けたことに伴い、がん相談支援センターが併置されました。熊本県唯一のがん看護専門看護師である安永浩子が緩和を中心としたがん相談に携わっております。また、4月よりがん連携クリティカルパスを使った連携には、がん診療連携指導料が算定可能

となりました。今後は、がん患者の治療や経過観察をご依頼する機会も増えます。ご協力の程、よろしくお願いたします。

開放型登録医の先生方から紹介頂いた患者さまの共同指導の案内も行っておりますのでご気軽にご相談下さい。共同指導の患者負担分は振り込み手数料のご負担なく当院で代理徴収しております。

5月17日にインターネットによる地域連携システム（りんどうネット）を開始しました。1～2ヶ月間試行後に全面稼働の予定です。同システムに登録して頂いた医療機関の先生方は、同意が得られた患者さまの熊本医療センターの電子カルテ情報の一部（連携診療録、検査結果、病名など）が参照可能となります。連携クリティカルパスや診療情報提供書は、双方向から入力可能です。従来より「FAX紹介」の受付をおこなっていましたが、インターネットによる地域連携システムで外来診察予約も可能となります。診察時間の予約まで行って頂くと診察の待ち時間が短縮致します。詳細は、地域医療連携室までお問い合わせ下さい。今後とも、ご支援のほど、よろしくお願い致します。

ご連絡先 TEL代表 096-353-6501 内線 2360

（地域医療連携室長 片渕 茂）



片渕室長と地域医療連携室スタッフ一同



アラ還暦を迎えて 思うこと

医法) ゆうこう会
田尻クリニック
院長 田尻 淳一



わたしは、水前寺で甲状腺専門クリニックを営んでいます。熊大1978年卒です。お勉強は好きではなかったのですが、諸般の事情のため、大学は8年間も通いました。したがって、同級生なるものが3学年おります。これは、医者になって便利です。同級生が3倍いるわけですから、何か頼むときや分からない分野を聞くときに有利です。反面、面倒でもあります。いつ一緒だったか、わからなくなることがあるからです。旧第三内科で、学位をいただいたあ

と、別府の野口病院で5年半、勉強をして熊本に帰ってきたのが1992年秋でした。それから、約19年半が経ちました。その間、診療所は今のところが3つめです。職員も2人から25人に増えました。医師もわたしを入れて3人になりました。子供は2人とも男です。長男は、声楽家の道を歩み始めました。次男は、来年、獣医学部を卒業します。要するに、跡継ぎはいないということです。進路については、自分で決めなさいといっていましたので、当然のごとく医師の道は選択しませんでした。好きな道を行くことが、本人の幸せであると確信しています。わたしは、医師になって良かったと思っています。患者さんを診察しているときが一番、充実したときです。さらに、父を家で自分の手で看取ってあげられたのも、わたしが医師であるから出来たことであると感謝しています。89才の母も、父と同じように家でわたしが最後を看取りたいと思います。

最後に、いつも患者さんをお世話になっている国立病院熊本医療センターには感謝の気持ちを沢山伝えたいです。専門外の疾患を紹介するとき、的確な診断と治療にはいつも感心させられます。新しい病院が出来上がり、さらなる発展をお祈りします。今後ともよろしく願いいたします。

FAX紹介での時間予約制をご活用下さい

日頃、多くの患者様をご紹介頂きまして誠に有り難うございます。紹介患者様の待ち時間を短くするためにFAX紹介で時間予約ができます。月から金の日勤帯です。

当院のFAX紹介用紙に受診希望日を入れてお送り下さい。担当者がカルテを作成し希望日に時間予約を取りましてFAXにて返信致します。是非、FAX紹介での受診日の指定と時間予約制をご活用して頂き、患者様の待ち時間短縮にご協力下さい。よろしくお願い申し上げます。

FAXの紹介用紙は、電話(代表 096-353-6501 内線 2360)またはFAX(医事 096-323-7601)でご請求頂きますと、直ちにFAXにてお送り致します。また、後ほど改めてFAX紹介用紙を郵送致します。

ホームページからもダウンロード出来ます。

国立病院機構熊本医療センターホームページアドレス <http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>

(経営企画室長 中村 敦)

新病院施設紹介〈7〉

医事課 外来・入院・時間外受付

外来受付



入院受付



時間外受付



待合ホール



患者様が病院へ来院し、まず尋ねる部署が外来受付です。『病院の顔』と言うべき部署でもあり、当院では「懇切丁寧、笑顔で対応」をモットーに日々対応しています。

新病院となり、外来受付は2番窓口（はじめての方）～6番窓口（お支払い）まで患者様へわかりやすく表示され、受付前の待合いホールには待ち時間等で疲れないような、ゆったりとした3人掛けの椅子が設置されています。また、入院受付においても、入院が1日平均約40人近い（多い日には100人を超える）患者様を待たせる事のないよう4席の受付台が設置され、後方の待合い席もゆったりとしたスペースが取られています。

一方、時間外（土曜・日曜・祝日を含む）の対応については、正面玄関の右側、救命救急センター入口前に時間外受付が設置され、救急患者の受入対応がスムーズになりました。当院では、平成15年8月に救命救急センターが設置され、365日24時間体制で、年間約17,000人（救急車による受入約7,000人）の救急患者を受け入れており、時間外（救急）の受付業務は重要な業務となっています。

お問い合わせは、下記をお願いします。

TEL 096-353-6501（代表）

FAX 096-323-7601（医事）

経営企画室長 中村 敦

2010
診療科紹介 (25)
救命救急・集中治療部



救命救急部長・集中治療部長
救命救急センター長
高橋 毅
救命救急、集中治療

日本救急医学会専門医・指導医・評議員
日本集中治療医学会専門医・評議員・会則検討委員
日本内科学会認定医・総合内科専門医・指導医
日本循環器学会専門医
日本糖尿病学会専門医・指導医・評議員
日本蘇生学会指導医・評議員
日本高気圧環境医学会専門医
日本臨床救急医学会評議員・編集委員
日本精神科救急学会評議員
日本航空医療学会評議員
日本動脈硬化学会評議員
日本医療マネジメント学会評議員
熊本大学医学部臨床教授
熊本大学大学院医学教育部客員准教授
国際医療福祉大学大学院特任教授
インフェクションコントロールドクター



救命救急部医長・集中治療室長
瀧 賢一郎
集中治療、麻酔

日本麻酔学会専門医・指導医
日本救急医学会員
日本集中治療医学会員
日本蘇生学会員



救命救急部医長・医局長
原田 正公
救命救急、集中治療

日本救急医学会専門医
日本蘇生学会員評議員
日本集中治療医学会員
日本臨床救急医学会員
日本精神科救急学会員
日本脳卒中学会員・日本内科学会員
日本循環器学会員・日本糖尿病学会員
日本内分泌学会員・日本透析医学会員
日本高気圧環境潜水医学会員
日本超音波医学会員



医師
児玉 章子
救命救急、代謝内分泌

日本医師会認定産業医
日本救急医学会員
日本集中治療医学会員
日本臨床救急医学会員
日本精神科救急学会員
日本脳卒中学会員・日本蘇生学会員
日本内科学会員・日本循環器学会員
日本糖尿病学会員・日本内分泌学会員
日本透析医学会員



医師
橋本 聡
救命救急、精神神経

精神保健指定医・日本救急医学会員
日本集中治療医学会員
日本臨床救急医学会員
日本精神科救急学会員
日本脳卒中学会員・日本蘇生学会員
日本内科学会員・日本循環器学会員
日本糖尿病学会員・日本内分泌学会員
日本透析医学会員・日本精神神経学会員



医師
北田 真己
救命救急、集中治療

日本救急医学会員・日本集中治療医学会員
日本臨床救急医学会員・日本精神科救急学会員
日本脳卒中学会員・日本蘇生学会員
日本内科学会員・日本循環器学会員
日本糖尿病学会員・日本内分泌学会員
日本透析医学会員



医師
櫻井 聖大
救命救急、集中治療

日本救急医学会員・日本集中治療医学会員
日本臨床救急医学会員
日本精神科救急学会員・日本脳卒中学会員
日本蘇生学会員・日本内科学会員
日本循環器学会員・日本糖尿病学会員
日本内分泌学会員・日本透析医学会員



医師
清水 千華子
救命救急、集中治療

日本救急医学会員・日本集中治療医学会員
日本臨床救急医学会員
日本精神科救急学会員・日本脳卒中学会員
日本蘇生学会員・日本内科学会員
日本循環器学会員・日本糖尿病学会員
日本内分泌学会員・日本透析医学会員



医師
山田 周
救命救急、集中治療

日本救急医学会員・日本集中治療医学会員
日本臨床救急医学会員
日本精神科救急学会員・日本脳卒中学会員
日本蘇生学会員・日本内科学会員
日本循環器学会員・日本糖尿病学会員
日本内分泌学会員・日本透析医学会員



医師
狩野 亘平
救命救急、集中治療

日本救急医学会員・日本集中治療医学会員
日本臨床救急医学会員
日本精神科救急学会員・日本脳卒中学会員
日本蘇生学会員・日本内科学会員
日本糖尿病学会員・日本内分泌学会員

(前ページより)

診療内容・特色

国立病院機構熊本医療センター救命救急センターは、国立熊本病院救急医療センターを前身とし、1968年7月に開設されました。当センターは日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本集中治療学会集中治療専門医研修施設であり、また各消防局の基幹病院として、熊本県の救急医療の中核を担っております。

私たち救命救急・集中治療部は救急外来で急患の初療にあたるだけでなく、全身管理を要する重篤な傷病者への集中治療を行っています。たとえば、心肺機能停止蘇生後、重症呼吸不全、敗血症、急性中毒などの重症度・緊急度の高い疾患を積極的に受け持っています。

また先進医療を導入し、最新の機器・技術を駆使して最良の救急医療を提供できるよう絶えず研鑽・研究を行っています。

新病院に移り、救命救急センターは約700坪に拡充され、病床は50床となりました。災害拠点病院として災害時は100床対応できるように設備も充実致しました。現在、平成23年度より運航となるドクターヘリの基地病院としてヘリポートの整備に着手しております。人的にも2009年度より山田周医師、2010年度より狩野巨平医師を迎えることができ、さらに高度な救命救急センターをめざして邁進して行きたいと思っています。

詳細は公式ホームページをご覧ください。

<http://www.nho-kumamoto.jp/kyukyuiryou/toppage.html>

診療実績

当院は1995年より救急に本格的に取り組むようになり、年間100台にも満たなかった公的救急車の受け入れ台数は年々増加を示し、現在は7000台を超える程になりました。また2003年に救命救急センターとなり、救命救急センター病棟への入院患者は2100名を超えています。

救命救急病棟入院者 (2009年4月～2010年3月)			
疾患群	人数	疾患群	人数
病院外心停止	142	重症体温異常	5
重症急性冠症候群	143	特殊感染症	2
重症大動脈疾患	41	重症呼吸不全	237
重症脳血管障害	371	重症急性心不全	135
重症外傷	275	重症出血性ショック	135
重症熱傷	13	重症意識障害	161
重症急性中毒	178	重篤な肝不全	7
重症消化管出血	93	重篤な腎不全	42
重症敗血症	127	その他の重症病態	138
		計	2117

研究実績

【厚生労働科学研究事業】

- 「脳梗塞急性期におけるミノサイクリンの脳保護作用についての臨床研究に対するプロトコル作成研究」
- 「健康危機・大規模災害に対する初動期医療体制のあり方に関する研究」
- 「咽頭冷却による選択的脳冷却法の臨床応用を目的とした研究」

【厚生労働省循環器病研究委託事業】

- 「循環器急性期医療におけるモバイル・テレメディシンの実用化とその評価に関する研究」

【国立病院機構多施設共同研究事業】

- 「血中プロカルシトニン値による外因性救急病態の評価」

【治験】

- 「E-5564第Ⅲ相試験」
- 「AZD9773第Ⅱ相試験」

ご案内

【モービルCCU】

患者様の安静が保たれるよう、静粛で振動を最小限に制御するように、大型車両でありながらガソリンエンジンとエアサスペンションを採用しています。大動脈バルーンポンピング・経皮的な心肺補助装置・人工呼吸器など複数の生命維持装置を装着した状態で搬送を行うことができます。



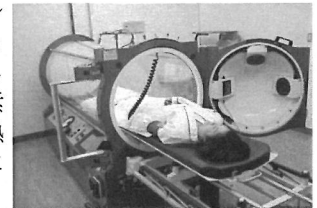
【モバイル・テレメディシンシステム】

救急車内の映像と12誘導心電図がリアルタイムで救命救急センターに伝送されます。救急車内を診察室へ、モバイルドクターカーを実現化しました。厚生労働省循環器病研究委託事業として、熊本市消防局との共同研究です。特に、循環器疾患や外傷など、傷病者の状態を病院到着前に把握し、適切な指示を与え、受け入れ準備ができるようになりました。



【高気圧酸素治療装置】

2気圧の圧力環境下で高濃度の酸素を吸入することにより血液中に酸素を溶解させることを目的にしています。その結果、動脈血中の酸素分圧が1000～1500mmHgと大きく増やすことができます。適応疾患としては、突発性難聴、一酸化炭素中毒その他のガス中毒、重症熱傷、外傷性の脳脊髄障害などに対して主に使用されています。



【救急症例検討会】

救急医療の充実に向けて、年7回(5月、6月、8月、9月、11月、2月、3月の第4水曜日)地域医療研修センターの研修ホールで午後6時30分より1時間半の予定で救急症例検討会を開催しています。また特別講演では高名な先生方をお呼びし、救急医療に関するトピックスをご講演いただいています。2009年9月に第100回を迎えることができました。



【ICLS講習会】

ICLS (Immediate Cardiac Life Support) とは、突然の心停止に出会った時にどのように対処すべきであるかという日本救急医学会認定コースです。特に「最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」スキルをメインとして習得することを目標としています。昨年度は当院の看護師120名がプロバイダーとなることができました。



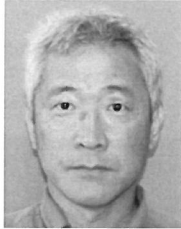
【日本DMAT】

災害派遣医療チームDMATとはDisaster(災害) Medical(医療) Assistance(支援) Team(チーム)の頭文字をとって「DMAT」と呼ばれ、「災害急性期(48時間以内)に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医師、看護師、業務調整員から成る医療チーム」のことをいいます。大規模災害発生時には私たちの医療チームが駆けつけます。



最近のトピックス

バーチャルスライドシステムを 導入しました



病理診断科医長

村山 寿彦

当院では、平成21年3月にバーチャルスライド(VS)システム(ScanScope XT: Aperio社製)を導入し、稼動しています。

VSとはスライドガラスデジタル化装置により病理組織標本全体をデジタル画像化したものです。これにより一度デジタル化された標本の観察には原則的に顕微鏡は不要で、コンピュータのモニター上で観察できます。

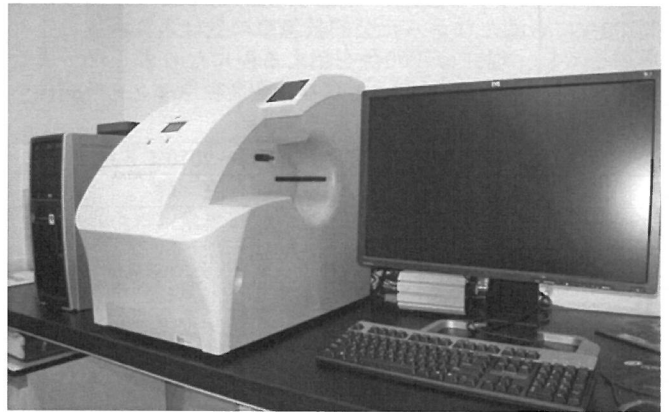
ScanScope XTの特徴は、撮影方式としてスキャナーによる帯状のスキャン画像を合成する方式を採用しているため撮影速度が速く、120枚のスライドをワンタッチでフルオートスキャンできることです。この方式の弱点とされているフォーカス精度も実用上問題ありません。さらに水平に位置する一枚取得トレイが併設されていますので、完全に乾燥していない術中迅速標本の撮影も可能です。

また、画像解析ソフトが付属していますので、例えば癌組織の浸潤の深さを実際に μm 単位で計測できま

すし、癌組織の中である蛋白質を発現している細胞がどのくらい含まれているかを即座に算出できます。

現状は患者様が持参された組織標本や病理の地方会で討議されるスライドをVSに変換し保存していますが、用途は幅広く、電子カルテと連携することで患者様への病理組織診断の説明や、各科のカンファレンスでの利用が容易になります。また院内用とは別の外部公開用サーバーも用意されていますので、インターネットへの接続により診断困難な症例のコンサルテーションも迅速に出来るようになりますし、病理医出張の際、出張先で術中迅速診断が可能となります。また医学教育にも活用したいと考えています。

現在、電子カルテとの連携を進めています。連携ソフトは完成し、あとは個々のスライドを識別する二次元バーコードの整備ができれば、完全に電子カルテと連携できます。また登録医の先生方が病理組織標本を閲覧できるように、外部公開サーバーへの接続も考慮中です。



バーチャルスライド (VS) システム

第7回 二の丸肝臓談話会のお知らせ

(日本医師会生涯教育講座3単位認定)

この度、第7回二の丸肝臓談話会を下記の要綱にて開催したいと存じます。

何かとご多忙中とは思いますが、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようお願い申し上げます。

内 容： 座長：清水まんごくクリニック 院長 木村 忠司 先生

1. 「知っておきたい肝炎に関する診療報酬改定と医療費助成の変更点」

国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長 杉 和洋

2. 「インターネットによる地域連携クリティカルパス—テスト運用報告」

3. 「IFN療法地域連携クリティカルパスの改訂～連携医療機関の声から～」

国立病院機構熊本医療センター7階西病棟 看護師 上田奈々枝

日 時：平成22年6月14日(月) 19:30~21:00

場 所：国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター消化器科医長 杉 和洋 TEL: 096-353-6501(代表) FAX: 096-325-2519

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ 44回

医用画像デジタルシステムにおける物理および視覚評価を用いた品質管理 (QC)

—特にモニター診断の施設において—

副放射線技師長 井手口 忠光

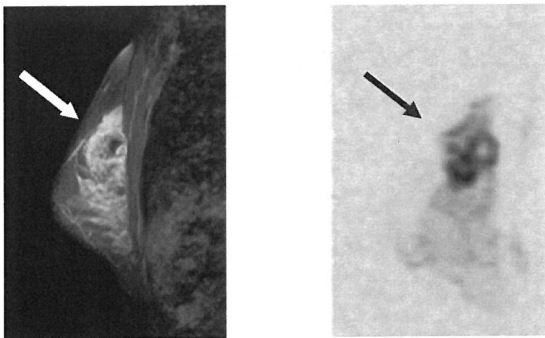


私たち放射線技師が行っている臨床研究は「画像診断」と「放射線治療」の分野に大きく分けることができます。その中で私は今までに「画像診断」に関する研究を主に行ってきました。最近では、特にコンピュータの急激な進歩によって、すべてのモダリティーの画像がアナログからデジタルへと変貌をとげております。デジタルの「画像の質」はどのようにすれば向上するのか、どうすれば病巣を鮮明に描出できるのか、そして放射線科医がその画像を診断するに当たり、どうすれば診断能が向上するのか？などが「画像診断」分野での最新の研究テーマであります。それはこの画像診断の分野に属するCT、MRI、核医学そして単純X線写真と全てにあてはまります。国立病院機構による多施設共同研究で採択された前回の研究は「改良型EPIシーケンスを用いた乳腺拡散強調画像の有用性と質的診断に関する研究」というMRIのテーマでした。独自のシーケンスパラメータを作成・検討を行いその結果、良好な拡散強調画像を得ることに成功し（図1）診断能向上に寄与することができました。

そして今回紹介する平成21年度に採択された多施設共同研究の内容は、医用画像デジタルシステムの品質管理です。当院は昨年9月に新病院に移設し、それ

に伴って新しい画像診断機器も導入されました。その中の一つが単純X線撮影に用いるFPD（Flat Panel Detector）です。デジタル画像のシステムは各社独自の周波数強調フィルターや画像処理が行われることが多く、このデジタルシステムを使用する放射線技師はその画像形成過程を十分理解し、その画質を高品位に維持しながら画像を医師に提供する義務があります。従って、このデジタルシステムの経年変化等に伴う画質の低下など、その程度を科学的に定量し把握することは非常に重要であり、まだ知見の得られてない研究テーマでもあります。定量解析はFPDより得られたX線画像のフーリエ解析により、鮮鋭度と粒状性を測定する物理評価を用い、その変化を追っていきます。また、モニター診断による経年変化も合わせて、放射線科医師によるROC等の視覚評価実験を行う計画です。図2には、以前測定した2つのデジタルX線システムの物理評価のデータ例を示しています。

本研究は3年という期間のまだ始まったばかりの研究で、皆様に報告できるまとまった結果が出てないのが残念ですが、研究成果をこの紙面をかりて報告できる日が来ることを願い、実験を進めていきたいと思っています。



造影 脂肪抑制 T1W 拡散強調画像

図1. 39歳、女性 充実腺管癌

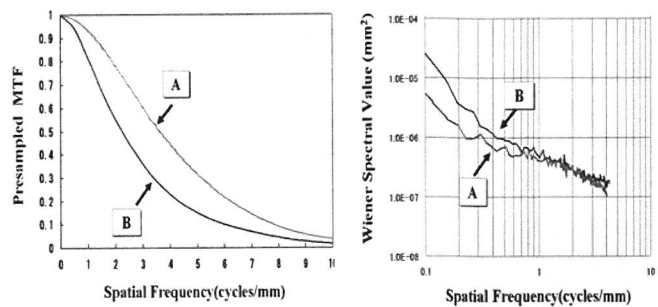


図2. (a) 鮮鋭度 (b) 粒状性

Aのシステムの画像はBに比べ鮮鋭度が優れており(a)ノイズの値も小さく(b)、粒状性も優れたシステムであることがこの二つの定量されたグラフから解析できる

新任職員紹介



感覚器センター

皮膚科

伊方 敏勝

平成22年4月より皮膚科医師として勤務となった伊方敏勝と申します。平成15年に研修医として、平成19年に皮膚科医師として勤務していたこともあって、熊本医療センターは自分にとってどこか懐かしい存在です。懐かしくもありますが、毎回来る度に違った顔を

見せてくれる刺激的な場所でもあります。前回退職後は何をしていたかと言いますと、平成20年、21年に大学院生として専ら研究をしておりました。研究ばかりで臨床（特に病棟業務）から離れていたため、勤がなかなか戻ってこないのが心配です。前回退職時にはもう戻って来ることはないだろうなあ・・・短期間で中途半端だったなあ・・・と若干不完全燃焼さを感じていたのですが、あっさりと今回は戻らせて頂く機会を得ました。今回はその続きと頑張って尽力したいと思います。至らぬ点多々ありますが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお祈いします。



心臓血管センター

心臓血管外科

村田 英隆

平成22年4月より心臓血管外科で勤務しております村田英隆と申します。

平成17年3月に日本大学医学部卒業後、日本大学付属板橋病院心臓血管外科、日本大学付属救命救急センターを経て、熊本大学大学院医学薬学研究部心臓血管外科入局。熊本大学医学部付属病院、済生会熊本病院

心臓血管センターで勤務致しました。

当院では、さらに手術ならびに集中治療、救急医療における研鑽を深めたいと思っております。しかしながら心臓血管外科におきましても、多くの開業医の先生方をはじめ、地域の先生方のご理解とご協力なくしては、当科の目指す医療は行えない事は身にしみて実感しております。先生方には日頃より病診連携に、ご理解ご協力賜わりまして心より感謝しております。

当院におきましても、先生方に利用しやすく、また患者様にも満足していただける病院を目指して参りたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻を賜り、病診連携の推進に向け努力して参りますので、どうぞ引き続きよろしくご協力のほどお祈い申し上げます。



外科

村田 飛鳥

4月から外科に勤務することとなりました村田飛鳥と申します。

平成19年に熊本大学医学部を卒業し、1年目は熊本医師会病院地域医療センターで、2年目は熊本大学病院で卒後研修を行いました。平成21年4月より熊本大学消化器外科へ入局し1年間熊本大学消化器外科でレ

ジデントとして勤務しました。現在、医師としては4年目となります。

外科医として一般病院で勤務するのは今回が初めてとなります。大学病院では重症症例や珍しい症例に出会うことが多かったのですが、一方で救急医療に携わる機会はこれまで少なかったように思います。当院は県内でも有数の救急病院として、熊本の救急医療を支える重要な役割を担っておりますので、一日も早くその一員として貢献できるよう研鑽を積みたいと思っております。

医師としても人としてもまだまだ未熟ですが精一杯努力していきたいと思っておりますので、何卒宜しくお祈いいたします。



救命・救急科

狩野 亘平

救急科専修医の狩野亘平と申します。平成20年より

2年間の熊本市立熊本市市民病院にての臨床研修を修了し、4月より医師3年目となりました。当院の「断らない救急」の方針のもと、地域の皆様の健康のために貢献してまいりますとともに、多彩な症例を経験し、研鑽を積んでまいりたいと思っております。システムに慣れるまで皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと思っておりますが、ご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお祈い申し上げます。

研修のご案内

第64回 特別講演(無料)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成22年6月9日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長 日隈病院 副院長 村山 英一先生

「精神医学の経緯について—うつ病を中心として—」

熊本大学医学部名誉教授・熊本労災病院名誉院長・天草病院顧問 宮川 太平先生

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代表) FAX 096-325-2519

第106回 三木会(無料)

(糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座1単位認定]

[日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成22年6月17日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「腹痛を主訴に発見された腫瘍を伴う膵性糖尿病の一例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

高村 惇・島川 明子・児玉 章子・高橋 毅・豊永 哲志・東輝 一朗

2. 「高血糖昏睡パスの有用性について」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

児玉 章子・高村 惇・島川 明子・高橋 毅・豊永 哲志・東輝 一朗

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501(代表) 内線5705

第137回 月曜会(無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座 単位認定]

日時▶平成22年6月21日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影

2. 持ち込み症例の検討

3. 症例検討「心原性ショックをきたした左冠動脈主幹部心筋梗塞の一例」

国立病院機構熊本医療センター循環器内科 古賀 英信

4. ミニレクチャー「IgA腎症について」

国立病院機構熊本医療センター腎臓内科 梶原 健吾

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第105回 救急症例検討会(無料)

日時▶平成22年6月23日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「中毒・自殺企図」

国立病院機構熊本医療センター精神科医長 渡邊 健次郎

国立病院機構熊本医療センター救命救急部長 高橋 毅

救急救命士、救急隊員を含めた全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通)

第3回 症状・疾患別シリーズ(会員制)

[日本医師会生涯教育講座2.5単位認定]

日時▶平成22年6月26日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長:熊本県医師会理事 飯星 元博 先生

演題:「CKD(慢性腎臓病)」

1. 大学病院の立場より

熊本大学大学院生命科学研究部腎臓内科学助教授 中山 裕史 先生

2. 急性期対応基幹病院の立場より

国立病院機構熊本医療センター 腎臓内科医長 富田 正郎

3. 開業医の立場より

中村内科医院 院長 中村 享道 先生

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費10,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通) FAX 096-352-5025(直通)

2010年 研修日程表 6月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

6月	研修センターホール	研修室	その他
1日(火)			15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前後症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
2日(水)			17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
3日(木)			7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
4日(金)			8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
7日(月)			8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
8日(火)			15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:30 外科術前後症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2 18:30~21:00 泌尿器科・放射線科合同プログラム C1
9日(水)	19:00~20:30 第64回 特別講演 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 座長 日隈病院 副院長 村山 英一 「精神医学の経緯についてーうつ病を中心としてー」 熊本大学医学部名誉教授/熊本労災病院 名誉院長/ 天草病院 顧問 宮川 太平		17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
10日(木)	19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会一般検査研究班月例会		7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
11日(金)			8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
12日(土)	14:00~16:00 第221回 滅菌消毒法講座 「医療機器の洗浄～鋼製小物からME機器まで～」	山鹿市立病院ME室第1種滅菌技師 藤井 裕	
14日(月)			8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
15日(火)			15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前後症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
16日(水)		13:00~17:00 糖尿病教室(研2)	17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
17日(木)	20:00~21:30 第54回 有病者歯科医療講演会 座長 前熊本市歯科医師会会長 古賀 明 「形成外科とくさず」 国立病院機構熊本医療センター形成外科医長 大島 秀男	19:00~20:45 第106回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座 単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]	7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
18日(金)			8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
21日(月)	19:00~20:30 第137回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座 単位認定]		8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
22日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前後症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
23日(水)	18:30~20:00 第105回救急症例検討会 「中毒・自殺企図」		17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
24日(木)	18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
25日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「肝臓について」	8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
26日(土)	15:00~17:30 第3回 症状・疾患別シリーズ [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 熊本県医師会理事 飯星 元博 「CKD(慢性腎臓病)」 1. 大学病院の立場より 熊本大学大学院生命科学研究部腎臓内科学助教 中山 裕史 2. 急性期対応基幹病院の立場より 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科医長 富田 正郎 3. 開業医の立場より 中村内科医院 院長 中村 享道		
28日(月)			8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
29日(火)			15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前後症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
30日(水)	18:00~19:30 第63回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルパス研究会(公開)		17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読影室 手術室
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター
TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)